

Instagram における「いいね」が大学生の孤独感及び承認欲求に与える影響

中尾颯之・松山尚輝・八塚瑞希・井川純一
(大分大学)

目的

SNS とは、Web 上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスである。これまでの先行研究では、SNS と孤独感、承認欲求の関係などについて明らかとされてきた。一方、先行研究の課題として、SNS 全体を対象とした研究が多く、若者が主に利用している Instagram に絞った研究を見つけることが出来なかった。また「いいね」などの SNS 独特のサービスに着目した検討も必要である。そこで、本研究では Instagram の「いいね」の数が気分を与える影響及び、大学生の孤独感、承認欲求と SNS ストレスや利用実態との関係について検討を行った。

方法

調査参加者 調査参加者は大分大学の学生 116 名 (男性 64 名, 女性 52 名)、平均年齢 19.31 歳 ($SD=1.02$) であった。

手続き 質問紙法を用いて行った。大学の講義中に配布し、その場で回答を求めた。

質問紙の構成 調査参加者は性別、年齢及び個人属性に関する質問票、日本版 MLAM 承認欲求尺度(植田,1990)、改訂版 UCLA 孤独感尺度日本語版(諸井,1991)、SNS ストレス尺度(岡本,2016)、Instagram の利用動機を測定するオリジナルの質問項目に回答した。その後、「いいね」の数が違う 2 種類の Instagram の投稿画面を提示し、その際の気分を測定する気分調査票(坂野,1994)に回答してもらった。

結果

尺度の分析 日本版 MLAM 承認欲求尺度 ($\alpha=.83$) 及び、改訂版 UCLA 孤独感尺度日本語版 ($\alpha=.92$) は先行研究と同様に一因子構造を採用した。SNS ストレス尺度は最尤法プロマックス回転による探索的因子分析を行った結果、投稿拡散不安 ($\alpha=.85$)、過剰なつながり ($\alpha=.83$)、拡張自意識 ($\alpha=.79$)、友だち申請の拒絶 ($\alpha=.86$) の 4 因子が抽出された。気分調査票は先行研究と同様に 5 因子構造を採用した(緊張と興奮 ($\alpha=.84$)、爽快感 ($\alpha=.88$)、疲労感 ($\alpha=.90$)、抑うつ感 ($\alpha=.94$)、不安感 ($\alpha=.86$))。

重回帰分析 緊張と興奮、爽快感、疲労感、抑うつ感、不安感の 5 つの気分を従属変数とし、個人属性その他の独立変数を投入した重回帰分析を行った結果、緊張と興奮、爽快感には有意な説明率が認められなかった(緊張と興奮: $R^2=.27, n.s.$, 爽快感: $R^2=.36, n.s.$)。疲労感、抑うつ感、不安感は「いいね」の数において有意な標準偏回帰係数が認められた(疲労感: $\beta=-.41$,

$R^2=.46$, 抑うつ感: $\beta=-.42$, $R^2=.51$, 不安感: $\beta=-.38$, $R^2=.51$)。

Table1 孤独感及び承認欲求との相関分析表

		孤独感	承認欲求
Instagram 頻度 調査 利用	投稿数	.124	-.063
	閲覧	-.168 ⁺	.172 ⁺
	フォロー	-.403 ^{**}	-.022
	フォロワー	-.383 ^{**}	.113
SNS 利用 動機	友人関係維持	-.058	.346 ^{**}
	新しい友達とのつながり	-.090	.247 ^{**}
	良い出来事の共有	-.360 ^{**}	.240 [*]
	嫌な出来事の共有	-.112	.159 ⁺
	新情報の取得	-.021	-.012
SNS ストレス 尺度	投稿拡散不安	.047	.305 ^{**}
	過剰なつながり	-.072	.215 [*]
	拡張自意識	-.037	.443 ^{**}
	友だち申請の拒絶	.130	.116

孤独感と承認欲求とその他の変数の相関分析を行った結果(Table1)、孤独感には Instagram のフォロー数、フォロワー数、SNS 利用動機の中の良い出来事の共有と負の相関が認められた。承認欲求は SNS 利用動機の友人関係の維持、新しい友達を探すため、良い出来事の共有、SNS ストレスの投稿拡散不安、過剰なつながり、拡張自意識と正の相関が認められた。

考察

ポジティブな気分において、「いいね」の数による有意差が認められなかった原因として、ポジティブな情報よりもネガティブな情報を過剰に見積もるネガティブバイアスが働いた可能性がある。そのため、「いいね」の数が多い場合には、ポジティブな気分に影響を与えなかったが、少ない場合においてのみ、ネガティブな気分に影響を及ぼしたと考えられる。

大学生の孤独感、承認欲求と SNS ストレスや利用実態との関係については、孤独感が高い人ほど SNS 上での人間関係維持及び、情報を共有することに対して消極的であり、承認欲求が高い人ほど SNS 上での人間関係維持や投稿による共有意識が積極的であると同時に、SNS ストレスを強く感じていることが示唆される。

引用文献

- 植田 智・吉森 護(1990).日本版 MLAM 承認欲求尺度作成の試み,広島大学教育学部紀要,第1部,第39号,151-156.
諸井 克英(1991).改訂 UCLA 孤独感尺度の次元性の検討,静岡大学文学部人文論集,42,23-51.
岡本 卓也(2016).信州大学人文科学論集(4),113-131.